

## 会 議 録

会 議 名	令和4年度第1回野田市地域福祉計画審議会（書面表決）
議題及び議題ごとの 公開又は非公開の別	1 議事 野田市地域福祉計画【第3次改訂版】事業の取組状況について （報告）（公開）
日 時	令和4年8月19日（金）（書面による審議を行った日）
出 席 者	委 員 鈴木 剛 須賀田 貞彦 石井 芳子 幡野 喜志子 和光 佳子 石神 勢津子 森田 邦子 岡安 誠人 瀬能 千恵子 岡田 さおり 小俣 文宣 澤田 健次郎 市川 ヒロ子 山中 邦枝 小林 幸男 鈴木 隆一 小林 恵一 古賀 晴美 並木 桃子 香山 啓 高須賀 節子
欠 席 委 員	無し
非 公 開 の 事 由	無し
議 題	第1回野田市地域福祉計画審議会の開催は、新型コロナウイルス感染症対策のため、書面による審議としました。 【発 送 日】令和4年8月4日（木） 【回答締切日】令和4年8月19日（金） 1 議事 野田市地域福祉計画【第3次改訂版】事業の取組状況について (1)報告を受け、了承した。 (2)委員からの意見を受け、別紙のとおり回答した。

## 別紙 1 (2) 委員からの意見及び回答

### 意見1 小俣 文宣委員

3ページのP86の12項と13項の「評価及び課題」と「計画期間中の今後の取組」が同じでよいのか。

<回答>

「地域生活課題に関する相談を包括的に受け止める体制の整備」と「多機関の協働による包括的な相談支援体制の構築」は、それぞれの事業で、包括的な相談支援体制の整備や構築ということで取り組んでいるため同じ記述としておりますが、今後はそれぞれの事業に即した表現にしていきたいと思います。

### 意見2 小俣 文宣委員

6ページの(2)「自立に向けた支援」と8ページの「生活困窮者自立支援事業」が同じ取組実績になっている。どちらか不要ではないか。

<回答>

自立に向けた支援として取り組む生活困窮者への対応のなかで、自殺リスクの高い生活困窮者とリスクが高くない生活困窮者の分類が困難なため、自立に向けた支援全体の取組実績を記載しております。

### 意見3 古賀 晴美委員

9ページ「(2) 自殺対策を支える人材の育成」について

6事業に市主催のゲートキーパー養成講座が中止になったことが記載されているが、生活支援課の実施見送り理由と、他の青少年課と児童家庭課で記載している講座中止理由に相違がある。同じ事業で中止理由に違いがあるのか。感染対策のために中止したのではなく、事業自体を変更するという事か。

<回答>

研修未開催については、事業自体の変更ではなく、真に効果的な対策について検討するため実施を見送りましたので、青少年課の「新型コロナウイルス感染症拡大防止のため」、児童家庭課の「感染症予防対策のため」を削除いたします。

**意見 4** 古賀 晴美委員

7ページ「バリアフリー社会の確立（2）ソフト面のバリアフリー」について  
10ページ「（4）生きることの促進要因への支援 事業名：避難行動要支援者  
名簿の提供について

上記記載内容について、内容が類似しているところがある。

7ページの方は、評価により課題分析がなされ、今後に繋げている。

しかし、10ページでは、名簿提供に関する評価分析がないことにより、課題も今後の取組みも出ていない。このタイミングでの事業名についての変更等は困難かと思うが、「避難行動要支援者支援事業」等とした方が事業内容に見合っていると思われる。

<回答>

事業名については、委員のご意見を踏まえて次回の地域福祉計画改定時（令和6年度）に検討してまいります。